

リレーエッセイ第4号 真冬の庭に咲く霜華

2021年1月10日、さいたま市の我が家の庭に不思議なものを見つけた。最初はビニールか何か枯れ草に絡まったのかと思って近づくと、全く違う光景であった。右の写真のような白い綿状のものが、草の茎に纏わり付いていた。

この現象は、1月10日、11日、21日と3回に亘って同じところに現れた。

今年の冬も咲くかと期待していたところ、2021年12月28日に咲き始め、2022.1.2、1.5、1.6、1.8、1.13、1.16、1.17、1.19、1.20、1.21、1.22と夜の外気温が氷点下になった日には必ずと言って良い位咲いていた。どうも今年の冬は寒さが厳しいようだ。まだまだ咲いてくれそうである。ただ、1.22の朝の外気温は-5℃迄下がり、霜華の大きさが少し小さくなったように見えたのが、気掛かりである。観察を継続する。



さて、これは何であろうと、インターネットで調べたところ、学名が *Collinsonia japonica*、属種が「シモバシラ」、別名ユキヨセソウという草があり、これに成長する霜柱である事を初めて知った。英語名から、どうも日本特有のシソ科の宿根性の多年草特有の現象のようである。Wikipediaによると「茎は断面が四角形をしており、やや木質化する。高さ40-70cmほどで、9-10月になると総状花序を出し白い花をつける。冬になると枯れたシモバシラの茎に霜柱（霜華）ができる。シモバシラの茎は冬になると枯れてしまうが、根はその後長い間活動を続けるため、枯れた茎の道管に水が吸い上げられ続ける。そして、外気温が氷点下になると、道管内の水が凍って、茎から霜華が滲み出す。この現象は、地中の根が凍るまで続く。」と記載されていた。

さて、我が家では「シモバシラ（ユキヨセソウ）」を植えた覚えがない。夏になって昨年「霜華」が咲いた場所を見てみると植えた覚えのある「サルビア・コクシネア」が咲いていた。サルビア・コクシネアは、シソ科で、学名は *Salvia coccines*、原産国はアメリカ中南部との事。茎は「ユキヨセソウ」と同じく四角く角張っている。





Wikipedia にあったシモバシラの特徴と、背丈、シソ科、茎が四角で良く似ている。庭のあちこちにサルビア・コクシネアは生えているが、霜華が咲くのは限

られた 3 本だけである。風通しの良い場所だけに咲くようである。

庭には、冷奴の薬味や、てんぷらでお世話になった紫蘇が何本も茂っているが、これも四角い茎なのに、なぜかこれには霜華は咲かない。いわゆる紫蘇は一年草で根が枯れてしまい、水を吸い上げないことが原因なのか。

この霜華は、外気温が 5-6°C になると完全に融けて無くなってしまふ。しかし、翌朝には形を変えて奇麗に咲いてくれる。下の写真は、地面に横たわった細い茎であるが、非常に繊細な霜華が咲いていた。

この霜華の成長に特殊な菌が作用していると言うテレビを見た記憶があるのだが、いつこの放送だったかを思い出せない。科学者の撮ったお宝映像だったように思うのだが、検索しても見つからなかった。我が家の霜華が咲く場所が限られていることと関係があるようにも思える。

80 年近く生きるとこのような珍しいものに繞り会える事も有るのですね。今年もまだまだ寒さが続くので、しばらくは霜華が咲いてくれそうで、毎朝が楽しみである。



関連資料：

<https://ja.wikipedia.org/wiki/シモバシラ>

<https://blog.goo.ne.jp/shiro169/e/b839c21d5d6c80d0e03b94c20823fe5b>

https://www.ces-net.jp/takaovc/?page_id=753

<https://www.shinrinkoen.jp/hana-ikimono/shimobashira.html>

<https://www.yamakei-online.com/yama-ya/detail.php?id=1302>